



巻頭言

今回の統一地方選について

●2019年4月7日に（都）道府県議会議員選挙が、同4月21日には市区町村議会議員選挙が全国一斉に行われた。当時、ある全国紙に「自民党連敗」という記事があったので、「それは良かった」と思ったが、「自民党連敗」は、1）大阪府／大阪市の選挙で維新の党が自民党に勝ったことと、沖縄での衆議院補選で辺野古反対派の屋良朝博氏が賛成派の自民党候補に勝ったことであり、それ以外の地域では、自民党がそれなりの地力を発揮した。

●現実には、自民党は前回（2017年）に比べて、全国ベース（都道府県議）で+5名と増えている。逆に旧民主党（立憲民主党+国民民主党）は、都道府県議員で前回比264名→201名に激減しているのである。改選前比でも229名→201名と大幅減である。

共産党は前回比111→99と△12／改選前比106→99△7；社民党は前回比31→22△9名／改選前比で47→22名△25名の大幅減である。

もっとも、今回の選挙では無所属議員が536名と大幅に増え全体の約24%と、自民党以外のどの政党よりも圧倒的に多かったため、この内訳を見ないと全体の勢力関係はよく分からない。

●その他今回の選挙で注目すべき特徴は以下の通りである。

1）投票率が過去最低であったこと：

埼玉県では、20市議戦の平均投票率は40.43%と過去最低であった。全国の市議選でも45.57%とこれも過去最低。都道府県議では、埼玉県で35.52%／全国平均でも44.08%とここでも過去最低であった。

戦後最初の地方選投票率は90%を超えていたが、その後年々減少を続けとうとう40%前後にまで落ち込んでしまった。

これら「無関心層」の投票率向上が今後の市民運動の一つの方向であることは間違いない。

2）無投票地区が多かったこと：

埼玉県の場合、全県52選挙区のうち、無投票で県議が決まった選挙区は22区にも上った。リベラル系政党は候補者が準備できず、ここでも自民党が412／612=67%もの当選者を出した。

全国の市区町村選挙では、全体の4割近い82市町村で無投票。市区町村議会議員選挙でも104の市町村（約15%）が無投票だった。無投票で決まれば民主主義は働かない。

3）女性の当選者は過去最高の237名となり、道府県議員総数2277名に占める比率も初めて1割を超えた。市議選では1239名／18.42%；町村議選では521名／12.31%といずれも過去最高である。これは良いことには違いないが、世界的に見ればまだまだ圧倒的に低く、山梨県のように女性議員は1人だけというような県もある。

4）「NHKから国民を守る会（代表：元NHK職員立花孝志）」という特異な主張を掲げた政党が意外に頑張った。全国で50名の候補者を立て、そのうち26名が当選したのである（東京16／千葉4／埼玉・栃木・兵庫・北海道各1）。NHK以外の課題に対してはどうするのだろうか。

ハッ場ダム問題の現状

渡辺洋子（ハッ場あしたの会）

コンクリート打設完了

さる6月12日、ハッ場ダムではコンクリート打設の完了を記念する式典が開かれました。

国交省関東地方整備局と本体工事を請け負った清水建設JVの共催で開かれたこのセレモニーは、NHKの「プロジェクトX」で中島みゆきが唄った主題歌、「地上の星」のメロディーが流れる中で始まり、参加者は約230名であったと報道されています。くす玉を吊るしたひな壇には、群馬県知事や国会議員など地元関係者の他、1都5県を代表して上田清司埼玉県知事も上りました。

本体工事の陰で、多くの問題が

ダム建設の技術が進んでいるせいで、堤体打設はスピード施行でほぼ終了したものの、水没予定地では今も発掘調査が続いています。地すべり対策や代替地の安全対策の工事も終了していません。関東地方整備局は今秋をめどに試験湛水を開始し、来年4月からのダム運用を目指すということですが、ハッ場ダムの規模のダムでは試験湛水に最低でも1年は見込むのが普通です。荒川上流の滝沢ダムのように、試験湛水中に地すべりが発生すれば、1年あっても足りません。

工期延長と共に考えられるのが事業費の3度目の増額です。東京電力への減電補償をはじめ、表に出ていない増額要因がいくつもあります。

地すべり対策と代替地の安全対策は大丈夫か？

ハッ場あしたの会では、地質の専門家チームに国交省の開示資料の分析を依頼し、ハッ場ダム事業における地すべり対策と代替地の安全対策が湛水に耐えうるのか調べてきました。その結果、対策費用を最小限に抑えるため恣意的な計算を行ったり、科学的な根拠を欠く結論を導き出している点がいくつもあることがわかりました。この問題を広く伝えるため、今年2月に群馬県庁記者クラブでレクチャーを行い、さら



ハッ場見放台よりダム堤
展望台「やんば見放台」より5/22撮影。名勝・吾妻峡の上流部に完成しつつあるダム堤



ハッ場ダムと安全対策の押さえ盛り土
ダム堤の左岸側からは地すべり対策の押さえ盛土、右岸側からは川原湯地区の代替地の安全対策の押さえ盛土がせり出している。5/22撮影。

に問題を追及するため、3月に関東地方整備局へ公開質問書を提出しました。

関東地方整備局は4月に書面で回答したものの、質問に直接答えない項目がいくつもあったことから、5月に超党派の国会議連「公共事業チェック議員の会」が行った公開ヒアリングでは、これらの項目について改めて問いただきました。「議員の会」を通して、国交省に対してさらなる説明と情報提供を求めているところです。

ハッ場ダムは多くの住民の居住地である吾妻川の中流域に計画されたため、ダム湖は水没住民の移転代替地を含め、多くの宅地に取り囲まれることになります。ダム湖周辺の安全確保は、ハッ場ダム事業の最も重要な課題であると同時に、現地住民にとっては生活の基盤を揺るがしかねない問題です。それだけに安易に不安を煽ることは避けねばならず、マスコミも慎重な姿勢ですが、試験湛水が迫る中、避けては通れない問題です。

過剰な施設が長野原町の重荷に

ダム予定地域では、ダムを受け入れる見返りとして多くの施設がつくられてきました。ハッ場ダム三事業に含まれる水源地域対策特別措置法の事業（約1,000億円）と利根川・荒川水源地域対策基金（178億円）で整備される施設は、学校や下水道などの公共施設、水没五地区の地域振興を目的とした施設、道路、公園など多岐にわたり、非水没地区も含めて過剰な施設が人口5000人余の長野原町にでき上がりつつあります。

6月13日付の朝日新聞群馬版は、「維持管理費が、綱渡りの財政運営を長野原町に強い続ける」として、ダムの町が直面する問題に踏み込みました。朝日新聞によれば長野原町は将来に備えて、今年度までに15億円の基金を積み立てているほか、地域振興施設の指定管理料（純利益の3割）とダムの交付金（国有資産等所在市町村交付金）を見込んでいるとのこと。しかし、施設が黒字とは限らず、ダムの交付金は満額でも年に約3億円程度とのこと。

施設の維持管理問題は、ダム受け入れを巡って町が大きく揺れた1980年当時から、長野原町と群馬県との交渉の中で取り上げられていま



横壁の体育館

地域振興施設として一部水没地区の横壁で建設中の屋内運動場。
6/6撮影。

した。1980年に群馬県が水没住民に提示した「生活再建案」では、ダム事業で整備する施設を運営するために、「水源地域振興公社」（仮称）を設立する計画が明示され、公社の運営は1都4県の基金事業で行い、水没住民200人の雇用が実現すると説明されました。

こうした条件に納得して地元は1992年に正式にダムを受け入れたのですが、それから15年たった2007年、群馬県は長野原町に突然、公社構想の白紙化を切り出しました。もともと下流都県との間に公社の約束はなかったという群馬県の説明に水没住民は憤りましたが、結局、長野原町は5年ほど前にこれを呑みました。

学校の統廃合問題

長野原町は今年に入って、小中学校の統廃合の検討を始めました。

水没予定地にあった長野原第一小学校と長野原東中学校は代替地へ移転しましたが、多くの住民が地区外へ転出したため、現在の全校生徒数は第一小学校がわずか17人、第一小学校と中央小学校の児童が進学する東中学校も約70人に減少しています。

第一小学校は2002年、東中学校は2006年に代替地に移転しました。第一小学校と東中学校の新築工事は、埼玉県を含む1都4県と国が負担し、周辺整備、防災対策などもダム事業で実施されました。

このため、2007年に長野原町が第一小と中央小の統合案を決めた時には、テレビや全国紙でムダな公共事業の典型として叩かれました。この時、町は校舎の新築費用を負担した1都4県がハッ場ダムの「生活再建」に協力しなくなることを恐れ、統合案を撤回したのですが、ダム事業が終盤に近づいている今回は、埼玉県土



長野原第一小学校。 2017/10/29撮影

地水政策課も「お金を投入してはいるが、ダムによって地元が一番苦労しているはず。良い選択ができるよう、今後は町の判断に任せたい」と理解を示しているとのこと（6/14朝日新聞群馬版）。

第一小の統廃合に限らず、これまではダム事業の支障になってはいけなないと伏せられてきた問題が、これから次第に露見していくのではないのでしょうか。



下湯原遺跡

川原湯地区の水没地にある下湯原遺跡では、縄文時代～江戸天明期の遺跡が重層して出土。JRの線路跡と国道跡の調査が進む。5/22撮影。

総会と「ほたるの川のまもりびと」上映会の報告

去る3月31日（土）浦和コミュニティセンター第14集会室にて総会と映画上映会が開催されました。

☆映画上映会報告

「ほたるの川のまもりびと」は長崎県川棚町こうばる地区に計画されている「石木ダム」建設に抗う住民のドキュメンタリーです。埼玉リレーカフェと共催し、主催者含めて69名の参加者で満員になりました。



石木ダム予定地では自然豊かな里山でごく普通の暮らしをしていきたいと願う13世帯は大家族のように暮らしてきましたが、現在13世帯の土地と家屋が強制収用されようとしています。

嶋津暉之さんの解説のあと、熱心に質疑応答がありました。佐世保出身の若い男性は「知らなかった。友達に伝えたい」と話していました。

治水も利水も必要のない石木ダム。ダム反対の世論を大きく盛り上げて絶対に阻止したいと思います。

☆総会報告

議案Ⅰ 2018年度活動報告及び会計報告

議案Ⅱ 2019年度活動方針（案）及び予算（案）

議案Ⅲ 2019年度役員

ハツ場ダムは、ダム本体工事が進められてダム堤

体が今年6月に完成しました。10月から試験湛水が行われる予定です。ダム湖周辺の地すべり対策と代替地安全対策は、対策箇所が15か所から8か所に減り、工法も簡易なものに変更されて安全対策が後退しています。このほかに東京電力への減電補償の問題が先送りされています。私たちは、試験湛水と本格運用で生じるハツ場ダムの様々な問題を監視して、粘り強く活動を続けていきます。

また、河川行政のあり方や税金の使われ方の変革を求め、荒川調節池問題にも取り組んでいきます。

埼玉の会のブログで、最新の情報を発信していきます。

<http://yambasaitama.blog38.fc2.com//>

「ほたるの川のまもりびと」感想

- ◆ハツ場ダムも含めて、50年以上も前に計画されたことが、これだけ事情が変わっても見直しをしないとか、一度決定したことは事情が変わってもとにかく作る、というところが不思議だし腹立たしいですね。
- ◆あれだけの豊かな自然と豊かな生活には感動しました。そして住民の方たちの団結には頭が下がります。
- ◆もっと多くの方に、この問題に関心をもってもらえる方策はないものか、考えさせられた。映画は、とてもよく出来ている。
- ◆非常に良い映画と解説でした。もっと努力する余地を指摘されました。
- ◆石木ダムのことは初めて知りました。酷い話ですね。でも住民の人々は偉いですね。故郷を奪つた行政は許せません。目を離さないようにしたいです。
- ◆石木ダム問題を国会でとりあげた国会議員がいたら名前をおしえてください。
- ◆この映画を試聴した政党や国会議員がいたら名称を教えてください。（質疑応答にて返答）
- ◆知ること。知らないこともできない。知らない私たちに教えてください。そして何を望んでいるのか。どうしてほしいのか知らせてください。
- ◆これからも頑張ってください。
- ◆とても感動しました。素晴らしい人々のたたかいと自然を愛する暮らしぶりに涙が出ました。いちばん記憶に残ったのは、7000万円で土地を売った人がキャンセルをもち崩したことに對し、残った人が言った言葉です。ここに残れば細々と暮らしても命を繋いでいくことができた。その命を奪ったのが、県や市のやったことだ。（以下略）
- ◆住民に必要なものが作られようとして、それを住民が阻止しようとしている。国が強制して必要なものを作るのは何故なのか。県は納得のいく説明を公開するべきですね。もっと市民にアピールすることは出来ないのでしょうか。
- ◆いつもこういう問題はそこに住む住民の苦しみを経ず。なぜ！沖繩にしても必ず同じ構図。なんとかならないものではないでしょうか。この国の意識が問われます。いつまでも責任を問われないこの国は将来どうなるのでしょうか。不安です。
- ◆拍から来ました。ありがとうございます。石木については名前だけを知っていましたが、本日の映画と講演で問題を認識しました。
- ◆今日はありがとうございます。前に東京新聞で石木ダムの話が出ていたように思います。なかなか遠い所だと気持ちが悪く、今日の映画はとてもよい機会となりました。辺野古も祝島もみんな同じ構図の中で起きているような問題ですね。みんな、それぞれの立場やところで応援してひろげていけたらと思います。
- ◆よくわかりました。ありがとうございます。
- ◆よい映画が出来ましたね。「まもりびと」の人たちを応援します。パタゴニアという会社もリスペクト。いかにばかっているかというところが話を聞いてよくわかりました。議員会館で是非上映会を！
- ◆ハツ場ダムは近郊なのでニュースで知っていましたが（詳しいことはわかりません）石木ダムは知りませんでした。福島（東北）といい、沖繩の件でも、これ以上自然をなくさないでほしいです。日本は北から南まで、それぞれ違う風景が合っ素敵なのに、このころの開発によって、どこへ行っても同じになりつつあります。すごく悲しいです。悲しい事には便利なものになれてしまってもう後戻りできません。ネットを使用して悪い事ばかり行っ人が出て来ますが、どうせならもっと活用して（良いことに使ってほしいです）下さい。残念ながら私はスマホもケータイも持ってないので参加できませんが…
- ◆ハツ場ダムのことを加藤登紀子さんのほろ酔いコンサートで知り、集会や川原湯温泉に何回か言ったことを思い出して、今回参加しました。当り前の日々の生活を守るため、私に出来ることで応援したいと思います。「署名頑張ります」！！
- ◆権利って主張して、勝ち取るものなんだと思っ。主張してもそれを認めない相手にはいろんな形で戦っしかないんだと実感した。行政が間違っていたらそれを風す空気づくりをする必要もあると感じた。税金の無駄遣いとか言わないで。

荒川第二・第三調節池の事業が始まるが、 荒川には喫緊の治水対策がある

嶋津暉之

一昨年から本ニュースでお伝えしてきましたが、2017年3月の荒川水系河川整備整備計画で既設の荒川第一調節池の上流側に荒川第二・第三・第四調節池の建設が計画されました。荒川第一調節池は洪水調節の機能のほかに水道用水の貯水機能もありますが、荒川第二・第三・第四調節池は洪水調節だけを目的としたものです。

このうち、荒川第二・第三調節池が2018年3月に新規事業として採択され、動き出しました。事業の概要は次のとおりです

荒川第二・第三調節池の新規事業採択（2018年3月）

- ・事業箇所 さいたま市、川越市・上尾市
- ・事業内容 調節池群の整備 約7.6km²（第二 約4.6km²、第三 約3.0km²）
治水容量 約5,100万m³（第二 約3,800万³、第三 約1,300万m³）
囲ぎよう堤 約13km 他
- ・総事業費 約1,670億円
- ・事業期間 2018～2030年度（13年間）



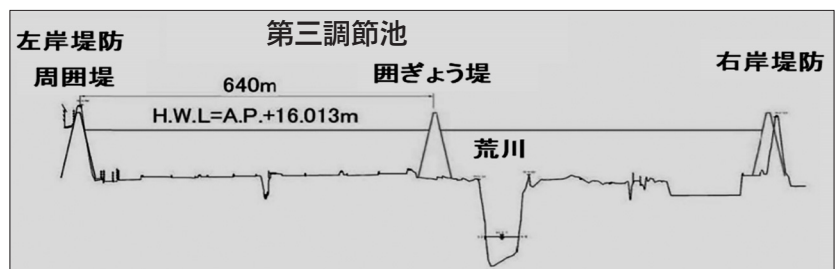
〔参考〕

① 洪水調節池の工事

荒川の広大な河川敷（第二と第三は左岸側）に洪水を貯留できるように荒川と河川敷を隔てる高い堤防（囲ぎよう堤）を築き、囲ぎよう堤の最上流側に越流堤（囲ぎよう堤より少し低くしてコンクリートで被覆）、最下流側に排水門を設置する。

② 洪水調節池の役割

かなり大きな洪水が来ると、荒川から越流堤



を超えて洪水が調節池内に流入する。洪水が終わったら、下流側の排水門を開けて、調節池内に貯留した洪水を荒川に排出する。これにより、荒川の大きな洪水のピーク流量を低減できている。

環境アセスメント

洪水調節池は国の環境アセス法や埼玉県環境アセス条例の対象になっていませんが、さいたま市の環境アセス条例（環境影響評価制度に関する条例）の対象になっていますので、荒川第二・第三調節池の事業は当面はさいたま市の環境アセスの手続きが取られていきます。さいたま市の環境アセスの手続きは次のとおりです。

- ① 調査計画書 縦覧 → 意見募集 → 修正
- ② 調査計画書に基づき、調査、予測及び評価（環境影響評価）を実施
- ③ 準備書（環境影響評価の結果および講ずべき環境保全措置の内容を記載）
縦覧 → 意見募集、公聴会 → 市長の意見 → 修正 → 市長に提出
- ④ 評価書（準備書を修正したもの） 縦覧・公告

荒川第二・三調節池事業に係る環境影響調査計画書の縦覧はすでに5月7日～6月7日に行われ、意見募集が6月21日までの期限で行われています。

その後、調査計画書が確定してから、調査や予測の作業が行われていきますので、上記の一連の環境アセスメントの手続きが終わるまで数年以上の年数がかかると考えられます。

荒川第二・第三調節池の予定地の自然

荒川第二・第三調節池の予定地は荒川の広大な河川敷（高水敷）です。河川敷の幅は700～1000メートルもあります。その大半は、運動場、ゴルフ場、水田、畑等に利用されており、残された自然空間はかなり限られています。残された自然空間としてあるのは、横堤とその周辺、荒川の水面周辺の茂み、点在するヨシ原などです。このような状態の予定地において環境

アセスメントの調査として漫然と植物調査や動物調査などを行っても意味がありません。残された自然空間を対象として植物の生育状況、動物の生息状況などを丹念に調査する必要があります。また、予定地には水田が少なからずありますが、湛水時の水田には昆虫や野鳥などが結構生息していますので、湛水時の動物調査も必要です。

荒川第二・第三調節池の事業費と費用負担

荒川第二・第三調節池の事業費は上述のとおり、約1,670億円という超巨額の費用が予定されています。そのうち、7割が国負担で、残り3割を東京都と埼玉県が負担します。

既設の第一調節池の治水分の負担割合は東京都と埼玉県がそれぞれ68.8%、31.2%でした。

この負担割合を使うと、第二・第三調節池の

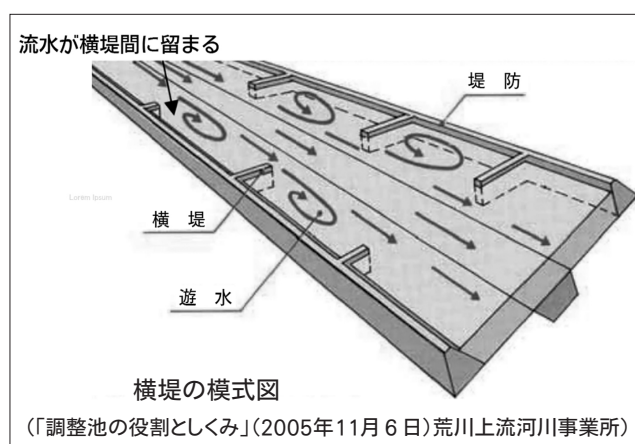
負担額は東京都が345億円、埼玉県が156億円になります。

事業費が非常に大きいので、東京都、埼玉県の負担もかなりの高額になります。東京都民、埼玉県民はこの事業が本当に必要なのか、他に優先すべき治水対策がないのかの説明を国や都県に求め、事業の是非をあらためて追及する必要があります。

荒川第二・第三調節池の横堤

荒川第二・第三調節池には昭和初期（1930年代前半）につくられた横堤があります。通常の堤防は河川の流れと並行していますが、横堤は河川の流れと垂直方向に設置されています。

600m程度の長さの横堤が700～800m間隔で設置されています。これは荒川から溢れた洪水の流勢を殺ぐ効果があり、実際の洪水で洪水ピークの削減効果が確認されているとのこと



荒川第二・第三調節池は本当に必要なのか？

荒川中流部は広大な河川敷があって、横堤もありますので、現状のままかなりの洪水調節効果があります。巨額の公費を投じて荒川第二・第三調節池をつくる必要が本当にあるのでしょうか。

総事業費1,670億円という超巨額の土木工事を起こすことが真の目的ではないのでしょうか。

荒川水系河川整備計画では荒川第二・第三調節池の建設が終われば、次は約700億円かけて、荒川第四調節池の建設に取りかかることになっています。



荒川には喫緊の治水対策がある (荒川下流の橋梁付近の堤防嵩上げ工事)

荒川下流部は下図のとおり、橋梁付近で堤防高が極端に低くなっているところが何か所もあります。大洪水が来れば、そこから洪水があふれて大氾濫を引き起こす危険性があります。

京成本線の荒川橋梁（堀切橋）は約400億円をかけて2018年度から架け替え工事を始め、堤防を嵩上げすることになっていますが、その他の箇所は嵩上げ工事が計画されていません。

荒川の喫緊の治水対策は、このように堤防高が極端に低くなっている橋梁付近の嵩上げ工事です。氾濫危険箇所の嵩上げ工事をすみやかに進める必要があります。必要性が希薄な荒川第二・第三調節池の建設事業を中止し、その巨額の河川予算を荒川下流の橋梁付近の堤防嵩上げ工事に投じるべきです。

荒川下流部の堤防高

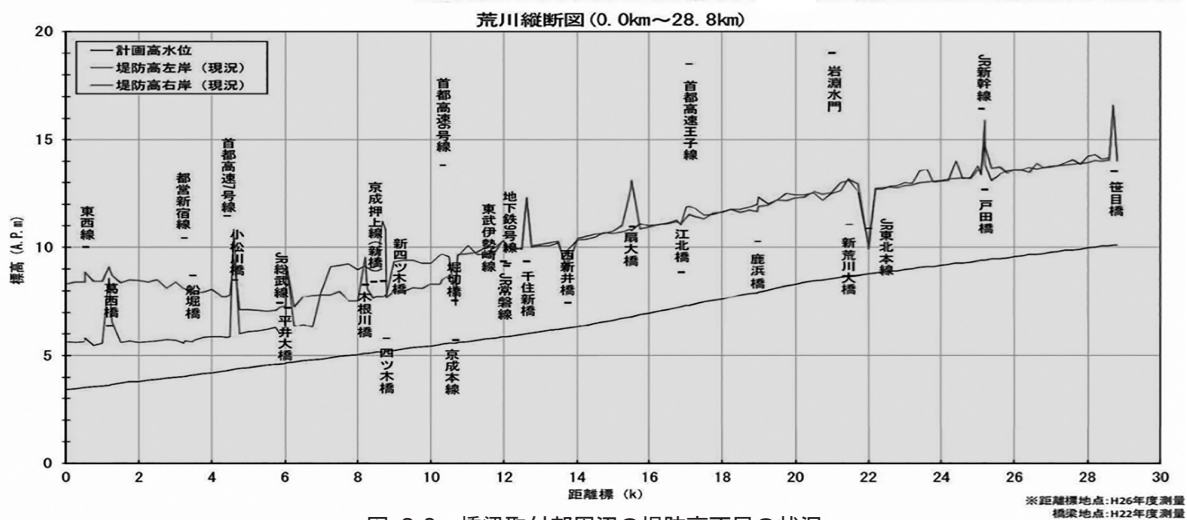


図 3-2 橋梁取付部周辺の堤防高不足の状況 (荒川下流河川維持管理計画 (荒川下流河川事務所))



ハツ場ダムをストップさせる埼玉の会

事務局：さいたま市桜区大字神田288-3-203 (大高方)

☎ & fax : 048-826-6178

ブログ <http://yambasaitama.blog38.fc2.com>

郵便振替口座：00180-2-334064

